

平成28年度 第5回和歌山県公立大学法人評価委員会 議事要旨

1 開催日時：平成29年1月17日（火）13：00～17：10

2 開催場所：ホテルアバローム紀の国 5階 カトリア

3 出席者

- ・委員：川淵 孝一（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医療経済学分野教授）
瀬戸 嗣郎（静岡県立こども病院院長）
辻 省次（東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻神経内科学教授）
中川 武正（白浜町国民健康保険直営川添診療所名誉所長）
中西 憲司（兵庫医科大学客員教授）
- ・和歌山県：幸前福祉保健部長、野尻局長、寺本医務課長

4 議事

- (1) 第二期中期目標期間における中間総括評価結果案
- (2) 第三期中期目標、中期計画の策定
- (3) その他

5. 議事要旨

(1) 第二期中期目標期間における中間総括評価結果案

○ 法人の自己評価に対し、評価委員が異なる評価を行った項目について

- ・資料2、3に基づき、法人の自己評価に対し、評価委員が異なる評価をした項目について、議論を行った。
主な意見については以下のとおり。

資料3 3ページ 法人の自己評価 IV → 評価委員会の評価 III

- ・登録学生が減少していることから、魅力あるプログラムの再検討が必要。

資料3 4ページ 法人の自己評価 III → 評価委員会の評価 IV

- ・早期体験実習を含め、様々な施設で体験実習を実施していることは評価できる。

資料3 5ページ 法人の自己評価 III → 評価委員会の評価 IV

- ・電子版オンラインジャーナル契約数が増加しており、図書館の蔵書の充実に努めていることは評価できる。

資料3 6ページ 法人の自己評価 III → 評価委員会の評価 III

- ・他団体と比較し突出した取組とまではいえないため、法人の自己評価と同様のIIIの評価とする。

資料3 7ページ 法人の自己評価 III → 評価委員会の評価 IV

- ・短時間勤務制度の導入や託児施設の充実など、女性職員にとって働きやすい環境整備に努めていることは評価できる。

資料3 8ページ 法人の自己評価 IV → 評価委員会の評価 IV

- ・ハラスメントをテーマに実施した研修を全職員の99.5%が受講（平成27年度）するなど、各種ハラスメントの防止に向けて意欲的に取り組んでいることは評価出来る。

資料3 9ページ 法人の自己評価 III → 評価委員会の評価 III

・医学部の入学選抜方法は、継続的に検討されており、検討の途上であることから法人の自己評価と同様のIIIの評価とする。

資料3 10ページ 法人の自己評価 IV → 評価委員会の評価 IV

・平成23年度と比較し、オープンキャンパス参加者数及び大学説明会参加校数がいずれも増加していることは評価できる。

資料3 12ページ 法人の自己評価 III → 評価委員会の評価 III

・中期計画を十分に実施できる見込みであり、法人の自己評価と同様のIIIの評価とする。

資料3 15ページ 法人の自己評価 IV → 評価委員会の評価 IV

・医学部の国際基準に基づく分野別認証評価の実地調査を受審し適合していると評価されるなど、国際基準を満たす教育に積極的に取り組んでいることは評価できる。

資料3 19ページ 法人の自己評価 III → 評価委員会の評価 III

・医学研究科の論文発表数、国際学会発表数が低調であり、増加に向けての一層の努力が求められるが、中期計画を十分に実施していると認められることから、法人の自己評価と同様のIIIの評価とする。

資料3 20ページ 法人の自己評価 III → 評価委員会の評価 III

・法人の自己評価と同様のIIIの評価とする。

資料3 21ページ 法人の自己評価 II → 評価委員会の評価 II

・PubMed収録英語原著論文数が増加に至っておらず、増加に向けての一層の努力が求められることから、法人の自己評価と同様のIIの評価とする。

資料3 22ページ 法人の自己評価 III → 評価委員会の評価 IV

・がん診療体制等の整備・充実を図ったことにより、診療実績が向上していることは評価できる。

資料3 24ページ 法人の自己評価 IV → 評価委員会の評価 III

・法人の自己評価はIVであるが、他団体と比較し突出した取組とまではいえないため、IIIの評価とする。

資料3 26ページ 法人の自己評価 III → 評価委員会の評価 III

・紀北分院の救急車搬送件数は特段多いとまではいえず、中期計画を上回って実施できる見込みであるとまでは評価できないため、法人の自己評価と同様のIIIの評価とする。

資料3 27ページ 法人の自己評価 III → 評価委員会の評価 III

・中期計画を十分に実施できる見込みであり、法人の自己評価と同様のIIIの評価とする。

資料3 28ページ 法人の自己評価 III → 評価委員会の評価 III

・他団体と比較し突出した取組とまではいえないため、法人の自己評価と同様のIIIの評価とする。

資料3 29ページ 法人の自己評価 III → 評価委員会の評価 III

・他団体と比較し突出した取組とまではいえないため、法人の自己評価と同様のIIIの評価とする。

資料3 31ページ 法人の自己評価 III → 評価委員会の評価 III

・医業収入の各指標が上昇しているが、中期計画を上回って実施できる見込みであるとまでは評価できないため、法人の自己評価と同様のIIIの評価とする。

資料3 32ページ 法人の自己評価 Ⅲ → 評価委員会の評価 Ⅲ

- ・他団体と比較し突出した取組とまではいえないため、法人の自己評価と同様のⅢの評価とする。

○ 第二期中期目標期間における中間総括評価結果（案）について

- ・資料1の中間総括評価結果（案）に基づき、議論を行った。主な意見については以下のとおり。

資料1 【全体に関わる事項】

- ・「第2 項目別評価」において各項目別に列挙する事項については、業務実績報告書の記載順に記載するのではなく、評価できる事項を前段に指摘事項を後段に集約して記載する。
- ・取組についての評価ではなく単に感想を述べているに留まる記載は削除する。

資料1 1ページ～2ページ 【1 総評】

- ・新卒者で100%、既卒者を含めた全体でも99.1%の医師国家試験合格率の達成に繋がった様々な取組を具体的に追記する。
- ・科学研究費補助金の採択費が低下傾向にあることから、一層の努力が望まれる旨を追記する。

資料1 3ページ～4ページ 【(1) 教育】

〈医学部〉

- ・新卒者で100%、既卒者を含めた全体でも99.1%の医師国家試験合格率の達成に繋がった様々な取組を具体的に追記する。
- ・海外との相互交流に一層注力する必要があるのではないか。

〈医学研究科、保健看護学研究科〉

- ・大学院医学研究科の論文発表数、国際学会発表数が低調であり、より一層の努力が求められる。

資料1 4ページ 【(2) 研究】

- ・科学研究費補助金の採択費が低下傾向にあることから、一層の努力が望まれる旨を追記する。

資料1 5ページ～7ページ 【(3) 附属病院】

- ・医療安全及び感染制御にかかる取組については、評価する事項として特段取り上げる取組とまではいえないため削除する。
- ・緩和ケアの提供体制をもっと充実させる必要があるのではないか。

資料1 8ページ 【(2) 人材育成・人事の適正化等】

- ・行政機関だけでなく急性期病院への事務職員の派遣も検討されたい。

資料1 9ページ 【(1) 自己収入の増加】

- ・査定率が0.8%程度であり、事務職員の能力向上など査定率低下に向けての対策が必要なのではないか。

資料1 9ページ～10ページ 【(2) 経費の抑制】

- ・後発医薬品の導入については、未だ一般急性期病院に比べ遅れているので、医療の質を落とすことなく着実に推進されたい。
- ・管理的業務にかかる委託費について、削減額が逡減傾向にあることから更なる努力が必要ではないか。

資料1 11ページ 【(3) 基本的人権の尊重】

- ・学内でセクシャルハラスメントの事実が発覚し中期計画初年度（平成24年度）の評価結果がⅡであったこと等を勘案し、評定をAとする。

(2) 第三期中期目標、中期計画の策定

- ・ 資料4に基づき、議論を行った。主な意見については以下のとおり。

資料4

- ・ 長期的な視点で、県立医大の役割、目指すべき方向性を明確に示すべきではないか。
- ・ 県の掲げる政策に対して県立医大がどのような役割を果たしたかを具体的に評価しうる形にする必要があるのではないかと。
- ・ がん対策については、がん対策推進基本計画を踏まえつつ、地域課題の解決に向けた具体的記載が必要なのではないかと。
- ・ 紀北分院のあり方について検討する必要があるのではないかと。
- ・ 専門医制度についても、3、4ページに記載の検討項目の一つとして盛り込むべきではないかと。
- ・ 次期期間中に薬学部が開学予定であることから、これを念頭に県評価委員会の体制を整える必要があるのではないかと。
- ・ 県の意向に沿った政策的な取組については、予算を確保し積極的に推進するべきではないかと。

(3) その他

- ・ 中川 武正 委員が平成28年度末をもって評価委員会委員を退任することが報告され、評価委員会の最後に同委員が退任の挨拶を行った。